教 授　**大宮　勘一郎**　OHMIYA, Kanichiro

1. 略歴

1984 年 3 月　東京大学教養学部教養学科第２・ドイツの文化と社会卒業
1986 年 3 月　東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了
1991 年 4 月　共立女子大学国際文化学部専任講師
1992 / 93 年　ドイツ学術交流会（ＤＡＡＤ）奨学金によりドイツ連邦共和国マンハイム大学留学
1996 年 4 月　共立女子大学国際文化学部助教授
2001 / 02 年　アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金によりドイツ連邦共和国ベルリン自由大学研究滞在
2002 年 4 月　慶應義塾大学文学部助教授
2005 年 4 月　慶應義塾大学文学部教授
2007 年 4 月　慶應義塾大学大学院文学研究科委員兼任
2011 年 4 月　東京大学文学部・大学院人文社会系研究科教授（現職）

2. 主な研究活動

a 専門分野

ドイツ近現代文学

b 研究課題

ヴァルター・ベンヤミン研究、ハインリッヒ・フォン・クライスト研究

c 概要と自己評価

ベンヤミン研究は、同時代の作家フーゴー・フォン・ホーフマンスタールやエルンスト・ユンガーらの、いわゆる保守革命運動との関係を考察する作業を進めている。科研費による「情動と技術の人間学的考察」研究プロジェクトを 2013～2015 年度に進め、多くの内外の研究者との議論を行い、実りあるものとなった。クライスト研究としては、「白兵戦」的抗争関係の歴史的変容のなかでドイツ文学を読み直す試みのなかにクライスト作品を位置づけ、レッシングやゲーテなど近代ドイツ文芸の他の作家たちとの問題意識の共通性を剔出する論文を上梓した。さらに、後期近代における「正義」理念の動揺を「文学」の社会的位置付けの問題と関連させた論文を学会誌に発表した。こうした問題意識はドイツの文学研究・文化研究者の関心に触れ、招待講演の依頼を二度受けている。（2016 年 4～5 月に実施。）

新たな世界文学全集の編集プロジェクトに参加し、文学作品の翻訳にも携わり、ゲーテの『若きヴェルターの悩み』の新訳を上梓した。

d 主要業績

⑴　論文

大宮勘一郎、「白兵戦の倫理」、『研究年報』（慶應義塾大学独文学研究室）、32、35-66 頁、2015.3
大宮勘一郎、「労働への動員か遊戯への接続か エルンスト・ユンガーの「有機的構成」とベンヤミンの「集合体」について」、『新しい人間の設計図』、2015.4
大宮勘一郎、「配分か交換か―近代以降の正義と文学」、『ドイツ文学』、Vol. 152、132-148 頁、2016.3

⑵　解説

大宮勘一郎、「ゲーテ　解説」、『ポケットマスターピース０２　ゲーテ』、733-744 頁、2015.10
大宮勘一郎、「若きヴェルターの悩み　作品解題」、『ポケットマスターピース０２　ゲーテ』、745-752 頁、2015.10

⑶　学会発表

国内、大宮勘一郎、「配分か交換か―近代以降の正義と文学」、日本独文学会 2014 年度秋季研究発表会、京都府立大学、2014.10.11

⑷　啓蒙

大宮勘一郎、「ヴァイマル」、『ドイツ　55 のキーワード』、2015.3
大宮勘一郎、「暗い時代の人々」、『ドイツ　55 のキーワード』、2015.3
大宮勘一郎、「『ヴェルター』とゲーテ」、ジュール・マスネ『ウェルテル』、23-26 頁、2016.4
大宮勘一郎、「道草のドイツ ― Don DeLillo の„Zero K“など」、日本独文学会ウェブサイト、2016.7

⑸　翻訳

個人訳、Johann Wolfgang von Goethe、„Die Leiden des jungen Werther“、大宮勘一郎、『若きヴェルターの悩み』、『ポケットマスターピース０２　ゲーテ』、7-200 頁、集英社、2015.10

3.　主な社会活動

⑴　学会

学会（国内）、日本独文学会理事、2013～

学会（国内）、日本独文学会会長、2015～

⑵　他機関での講義等

訪問教授、Freie Universität Berlin、2015.8

招待講演、ゲーテ自然科学の集い、「エミーリア、ヴェルター、イフィゲーニエ、ペンテジレーア」、2015.10

招待講演、Fernuniversität in Hagen、「Die Ethik des Nahkampfs in der deutschen Literatur um 1800」、2016.4

招待講演、Universität Mannheim、「Teilen oder Tauschen」、2016.5